

#### 4/24 マタイの福音書 28 章 16-20 節「主の弟子を目指して」

小池 宏明 牧師

復活された主イエス様は、弟子たちにガリラヤで会うことを約束した。弟子たちはガリラヤに行き、主は弟子たちに大切な教えを与えた。18-20 節。

##### \*復活の主の教え

① 18 節「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。・・・」

「天においても地においても」とは、一切合切すべての事を指す。目に見える世界も見えない世界も、過去も未来も、すべてのすべてに、権威を持っておられるイエス・キリストなのだ。この場合の「権威」とは、「神の力そのもの」だ。この世の権力者や独裁者が振りかざしているような抑圧や虐げのような力ではない。このような超越的な権力、支配力をお持ちの方、主イエス・キリストが命じておられるのだから、私たちは、身を正して聴く必要がある。

② 19-20 節前半「28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、28:20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。・・・」

ここで、中心的な命令は、あらゆる国の人々を弟子としなさい、ということだ。主イエス・キリストの弟子になる方法が、まとめられている。まずは「行く」ことだ。いにしへの教会は、国内でも国外でも、まだ主イエス・キリストの十字架と復活が伝わっていない所に、宣教師を遣わしてきた。今も派遣し続けている。次に、弟子にするためにバプテスマすなわち洗礼を授けることだ。しかも、父なる神様と子なるイエス様と聖霊なる神様「の名において」授けるのだ。三位一体の神様の名前に「おいて」洗礼を授けるとは、直訳では三位一体の神様の「中へ」留まることも意味する。さらに、イエス様が命じられたことを守るように教えることが弟子となる方法だ。しかも「守るように」教えるとは、単なる知識としてではなくて、生活化することを意味する。キリストの弟子としての生き方を証しすることだ。

③ 20 節の後半「「・・・見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」」私たちは、主イエス様が、お命じなされたことだから、厳粛に受け止める。しかし、恐れも不安もある。私になんか出来るはずがないと、尻込みをしたくなる。主イエス様は、私たちの弱さも、足らなさも、失敗を繰り返すこともよく知っていて、いつまでも共にいて下さると約束された。私たちは生きる力と勇気を頂いて、主が命じられるところへ派遣されていく。